

# □ きゅうり □

タバココナジラミ防除対応 栽培指針

中段 標高500～600m基準

## 1 作型・品種

	は種期	定植期	収穫期	適品種
夏秋露地栽培 接木	4/上～4中	5/下	6/下～9/下	金星・夏すずみ

## 2 特性

- (1) 発芽適温 25～30℃（15℃以下、30℃以上で発芽率劣る）
- (2) 生育適温 18～25℃（10℃以下、35℃以上では生育が止まる。  
※-1℃以下では凍死、50℃以上ではえ死する。
- (3) 花芽分化
  - ・育苗中、生育初期に10℃以下の低温に長期間遭遇すると成長点に雌花が異常に着生し、いわゆるかんざし症状となり成長が止まる。
  - ・育苗期間は15℃を確保し、適度な着花を促す。根の生育適温は20～23℃である。

## 3 品種

- ・金星……うどんこ病、えき病に耐病性を持ち、収穫量の波が少ない。
- ・夏すずみ……うどんこ病、えき病に耐病性を持ち、収量が多い。

## 4 土壌・施肥

根は2mにもなるがその大部分は深さ30cmまでに分布する。酸素要求量が多いことを示しているので、深耕、有機質の施用などにより土壌改良を行うとともに排水、灌水対策を行う必要がある。

- (1) pH 5.5～6.7
- (2) 施肥（成分量） 堆肥 100kg/1a

【本 ぽ】

	a当り総量	基 肥	追 肥
N	4.0～4.5kg	2.0～2.5kg	2.0～2.5kg (大玉は2～3割増)
P	3.0～3.5kg	全量基肥	
K	3.5～4.0kg	2.0～2.5kg	1.5～2.0kg

- ※ 追肥は収穫のはじめ頃より生育を見て、10日間隔くらいで少量ずつ行なう。
- ※ 緩効性肥料の100日タイプを使用して全量基肥で施用して、追肥で微調整することも可能である。

## 5 は種・育苗

自根育苗は箱播き、8cmの条まきして、1～1.5枚の時にポットへ移植すると徒長せず、健苗となる。

4～5月の接木育苗でも30～35日で定植となるので、温度管理、水管理は十分に注意して行う。

穂木播種	接木	穂軸切断	定植
台木播種			
0~2日	播種後11~13日	接木後9~11日	切断後5~7日
○-----☆-----	△-----	◎-----	×

(1) きゅうりの播種と管理

- 種子の必要量 本ぼ a 当たり130~150粒
- は種床は育苗箱を使用し、条間8~10cm、間隔1、5~2cmとする。種子は横並びにそろえる。
- 播種後は十分に灌水を行い、乾燥防止のために新聞紙をかける。
- きゅうりは温度は30℃の高めに管理し、発芽し、土を持ち上げてきたら新聞紙を取り除き、管理温度は少し下げ、徒長させないように管理する。カボチャの長さにあわせる。

(2) 接木とその後の管理

呼び接ぎ 挿し接ぎ等 方法がある。 略

## 6 定植・その後の管理

(1) 定植（播種後35日頃）

- 巻きひげが出始めたら定植するとよい。十分に外気に慣らしてから行う。
- ポットの形を崩さない。又、深植えにならないように注意する。

(2) 活着促進

- 定植後株元へ2~3回灌水を行い、活着を促進する。
- 活着後は灌水を控えて、粘りを良くする。

(3) 追肥

- 収穫が始まったら追肥を始める。少量多回数とし、7~10日毎に行う。
- 成り花の開花に注意して、量の加減を行う。

(4) 灌水

- 活着後、収穫が始まる頃から乾燥したら夜間又は、早朝に行う。
- 7日以上降雨が無いときには畝間灌水を行う。
- 日中まで水がついていないように時間、量に注意する。

(5) タバココナジラミ対応

- タバココナジラミを「入れない」「増やさない」「出さない」ため、**防虫ネット(0.4mm目合)**を設置する。**環境にやさしい農業技術①**
- 施設の出入り口及び窓等の開放部分には、0.4mm目合の防虫ネットを設置する。
- コナジラミ類の発生状況を「**黄色粘着版**」を用いて確認する。**省力化技術**
- コナジラミ類は“黄色”に誘引されるため、黄色粘着版をハウス内に設置し、発生状況を定期的に確認し、防除の目安とする。
- 出入口を中心に、ハウス内の複数個所に設置する。
- 設置する高さは施設内では生長点付近とする。

- ハウス外周部に黄色粘着テープ（シート）を設置する場合は、地上50cm程度の場所とする。（他県が屋外で調査した事例では、全誘引数の60～70%が地上30cmで誘殺された）
- ハウス周辺の雑草の除草を徹底する。
  - コナジラミ類は、多種の雑草にも寄生するため、ハウス内は常に除草を行い、寄生する植物を極力少なくする。
  - ハウス周辺についても定期的に除草し、寄主植物を極力少なくする。なお、除草を行う際は、拡散を防止するため、上記の効果的な薬剤の散布を行った後、草刈り作業等を行う。
- 植物残渣は適正に処分する。
  - 栽培終了後に残渣をほ場外へ持ち出す場合は、抜根して地上部を十分に枯らしてから行う。
  - 果実が着生した状態では枯れ込みが遅れるため、果実を除去してから行い、果実も適切に処分する。
  - 残渣は焼却又は埋設処理とするが、その処置が難しい場合には、残渣全体を透明ビニールで被覆し、植物に寄生しているコナジラミ類が拡散しないようにする。
- 体への付着によるハウス内及び団地内への侵入・拡散を防止する。
  - 栽培ハウスに出入りする際は、ブロワーによる風を10秒ほど体全体にあて、体への付着による侵入及び拡散を防止する。
  - 他地域（県外含む）から団地へ訪れる資材業者や行政関係者等に対して、産地間移動による持ち込みに注意するよう、各自で注意を促すとともに、可能であればブロワーの使用を依頼する。
- 購入苗の場合は、苗に害虫の付着がないか確認する。
  - 購入苗を導入する場合は、団地内へ到着した段階でコナジラミ類の付着の有無を確認するなど、クリーンな苗を導入する。

## 7 誘引、整枝、摘果

定植後は速やかに支柱、ネットに誘引し、倒伏、折れを防ぐ。2～3回行う。

- 整枝・摘果
  - 生育を始めたら、下5～6節の枝、実はすべて早めに摘み取る。（一本仕立て）
- 更に10節までは一果一葉とする。それ以後は1～2果2葉で摘心する。
- B級以下の実は早めに摘果する。
  - 開花している所から上に展葉している葉が6枚くらい有るのが良い生育です
- 展葉後45日位を目安に摘葉を行う。内、外交互に行う。
- 親つるの摘芯は手が届く高さから30cm位下で行う。
- 8月中旬以降は放任するが、強い枝、傷んだ葉は適時摘む。
- 枝は出来るだけ垂れないように誘引する。

## 8 追肥

- 収穫が始まったら少量ずつ追肥を行う。
- 追肥は内側、外側の交互に行う。
- 長雨等により根の傷んだとき、後半樹勢が落ちたときは葉面散布も効果が高い。

